

檜葉町の歴史文化講座「檜葉学@ならば」

「地域学」という言葉を聞いたことがあるだろうか？これは、地域というフィールドを歴史・科学など様々な領域から研究することと同時に、住民自身が地域について学び、それを地域づくりに活かしていく「運動」を含んでいる。民俗学者の赤坂憲雄は「東北学」を提唱し、平成 2 年には「山形学」講座が山形県生涯学習センター主導ではじまり高い評価を得ている。

現在進行中の「東大教室@檜葉」が専門的・学術的な講演による啓蒙活動であるとするなら、「檜葉学@ならば」は地域に即した学術的・実践的な講座、体験学習による啓蒙活動である。

第 1 回「檜葉の弥生時代」

8 月 4 日（日） 10:00～11:30

檜葉町コミュニティセンター

講演「檜葉の弥生時代」（講師 生涯学び課長 坂本 和也）

天神原遺跡は知っていても、そこから出土した土器が「天神原式土器」と名付けられた考古学のうで大変重要な土器であることを知る人は少ない。今回は「天神原式」ってなあに？…まずはここから話をはじめたいと思います。また、たくさんの弥生時代の土偶が見つかってしましますが、土偶の姿、形からは秘められた「弥生人の思い」が見えてきます。檜葉の弥生時代はどうだったのか…それを探してみたいと思います。（博物館に展示された天神原土器の見学も含む。）



落語「猫の皿」（どこい亭ここい亭）

江戸時代も幕末になると戦などは遠い世界の事となり武士も庶民も趣味道楽に凝り始める。それで、旗師という商売人が諸国を旅し骨董品の掘り出し物を安値で買い、それを江戸で何百倍もの高値で売って儲けるなんてことが横行した。この噺は、旗師のたくらみを逆手に取り、猫の皿(実は絵高麗の梅鉢)をおとりにお茶屋のおやじが旗師から三両をかすめ取るというもの。僅か 5 分程度の短い噺であるが、マクラをたっぷりふることで 30 分以上の大ネタにもなる。美術品(文化)を金儲けの手段にする…そういう人間の性を滑稽に描いている。